

ごあいさつ



公益社団法人 日本WHO協会
理事長 関 淳一

2月7日から、ロシアのソチで開催された第22回オリンピック冬季大会及びそれに続くパラリンピック大会については、日本選手の活躍もあり、連日テレビや新聞などのメディアを通じて大きく報道され、多くの国民がそれを楽しみました。

ただ、私として少し残念に思うのは、ロシア政府のバックアップのもとで、開催都市のソチ市が中心になり大々的に行った「ソチ禁煙オリンピック (Sochi's Smokefree Olympics)」運動について、日本のメディアでは、全くと言っていい程報道されなかった点です。

Smokefree Olympics 運動は、ソチオリンピックで、第12回となりますが、禁煙エリア内での喫煙者にどの様に対処するか等について、事前にトレーニングを受けたボランティアの活動など、2020年に東京オリンピックを控えるわが国にとって学ぶべき点は多かったと思います。

今回、日本歯科医師会会長の久保満男先生にお願いし、「高齢社会における歯科保健医療のあり方」と題してご寄稿頂きました。広く、超高齢社会における保健医療の在り方は、わが国にとって目下の最重要課題であると同時に、現実に基づいた明確な理念哲学が求められていると思います。

久保会長の言われる「生活の医療」という概念は極めて深遠な意味のある言葉だと思います。

去る2月13日に、2013年世界保健デーのテーマ「高血圧」の当協会としての啓発活動の集大成の形で「高血圧サイレントキラーの正体」と題するフォーラムを開催し三浦克之教授と由田克士教授にご講演いただきました。

今回、その時のご講演の内容を文章化していただき、掲載いたしました。お二人の先生に改めてお

礼申し上げます。

また、昨年4月から6ヶ月間、ジュネーブのWHO本部のなかにある国際パートナーシップ世界保健医療人材連合 (GHWA) に於いてインターンシップを経験された群馬大学大学院保健研究科の牧野孝俊先生にその時のご経験についてご寄稿頂きました。牧野先生には、インターン終了直後に、私どもの協会にお立ち寄りいただき、直接お話をお聞きする機会も持つことができました。

丁度この「目で見るWHO」第54号が発行される直前の3月19日付けで、私どもの協会が申請しておりました、WHOのホームページ上にある、FactSheetsを日本語に訳し、私どもの協会のホームページ上で公にすることに、ジュネーブのWHO本部から正式の認可がおりました。

Fact SheetsはWHOが関与している保健医療等の分野の重要事項について最新のデータを基に広報されているもので、現在125項目ですが、常に項目、内容ともに最新化されており、極めて有用な資料です。したがって、日本語訳も、常に最新版に更新していく必要があります。また日本語訳の正確を期するため更新の都度、WHO神戸センター (WKC) の校閲を受けることになっております。

今回の認可にあたっては、WKCの岸谷美穂渉外担当官に大変お世話になり感謝いたしております。今後は、当協会の事業の中の柱の一つとして位置づけ、WHOから指示されている諸規定を遵守し、全力で取り組む決意です。岸谷様をはじめ、WKCの方々には、今後一層お世話になることと思いますが、何卒よろしくおねがい申し上げます。

平成26年 春